

V243c 「あかり」データアーカイブプロジェクトの現状(11)

山村一誠 (ISAS/JAXA)、「あかり」チーム

赤外線天文衛星「あかり」の取得した貴重なデータが天文学研究に有効に活用されるよう、我々は衛星運用終了後も引き続きデータ処理・解析・アーカイブ活動を行っている。あらかじめ処理・校正を施したデータプロダクトを作成公開することにより、観測装置や衛星に関する詳細な知識が無いユーザーでも、必要なデータを検索・閲覧し、ただちに科学的解析に取りかかることが可能になり、「あかり」データのより広い天文学研究への利用が促進される。

本活動は、2013年4月より続けられおり、これまでに、全天サーベイ観測からカタログ、イメージマップを作成・公開し、また観測プロポーザルに基づく指向観測データについては、ほとんどの観測モードで処理済みのイメージおよび分光データを作成、公開することが出来た。これらのデータは、研究者の「あかり」データ利用の敷居を下げるだけでなく、当初の観測提案とは異なった視点からの科学研究を促すことにもなっている。

本講演（ポスター）では、前回報告（2018年春季年会）以降の活動を中心に、公開されたデータの内容、公開状況、利用状況を紹介し、「あかり」データの科学研究への効果的な利用方法について議論する。また、今後の「あかり」データアーカイブの整備・利用促進の方向性についても触れる。